

やまぐち

桜の森

2011.4 第7号

通信
山口県立大学広報誌



[特集]

「地域貢献型」山口県立大学

～地域共生センターの取組みから～

この半年の出来事

研究室紹介
講義紹介
相談の森

学生紹介
サークル紹介

留学生紹介

創立70周年記念事業紹介
新任教職員紹介
当初予算概要

トピックス
キャンパススケジュール



Yamaguchi Prefectural University
70th Anniversary



「地域貢献型」山口県立大学～地域共生センターの取組みから～

山口県立大学では、様々な地域貢献活動を行っており、各方面から高い評価を受けております。2010年度には、日本経済新聞社産業地域研究所が行った調査（対象754大学、回答525大学）による「大学の地域貢献度ランキング」で、本学は16位に位置付けられています（昨年度は27位）。今回は、本学の地域貢献活動の窓口である地域共生センターの取組みにスポットをあて、本学の地域貢献活動に参加された地域の方々の声を紹介します。

生涯学習部門

地域の方々に大学の教育研究機能を開放し、学習機会を提供しています。

地域づくりのノウハウを学び 今後の活動に活かしたい

日常生活や地域活動など、身近な課題を取り上げて、それらを解決するために生徒が生涯学習専門講座が「やまぐち桜の森カレッジ」です。平成21・22年度の講座に参加した山根義彦さんは、定年退職しててきた自由時間を生涯学習に充てたいと申し込みをされました。

「前回は国際・文化コースでしたが違う分野も学びたくなり、今回は地域づくりコースに参加しました。講座はゼミ形式でしたが講義や見学もあり、シニアの地域デビューにあたってのノウハウや具体的なヒントをたくさんもらいました。講師の先生が熱心で、私たち社会人にも全力で教えてくれます！」



やまぐち桜の森カレッジ受講生
山根 義彦さん



個性豊かなメンバーで
活気がありました。

学生もパネリストとして参加。



クロス・トーク

YPU(山口県立大学) 生涯学習ボランティア講座

大学と地域をつなぐボランティアリーダーを養成しています。2/26(土)に実践活動報告＆交流学習会が行われました。

附属地域共生センターとはこんなところです！



笑顔と元気があふれる職場。若さと年期がつながる職場。それらがなければ通じない職場。それが、この附属地域共生センターです。大学が地域のニーズを受けて応えていく先鋒として、県内各地の地域の方々や行政・各団体・企業等と連携・協働のもとで活発な取組みを進めています。多くの営みは、単なるサービスではなく、地域と共に生き、未来を語りつつ進める学習や研究、創造の営みなのですから。



附属地域共生センター
所長 赤羽 潔

産学公連携推進部門

企業・自治体・NPO等との
共同研究・受託研究を推進しています。

山口県産作物をブレンドした オリジナル八宝茶を開発

民間企業等からの依頼で調査・研究を行う受託研究制度を活用した中国茶館「茶座」の阿武直子さん。阿武さんの商品に対する熱意に心を動かされた3人の先生が携わり、平成21年度から2年間継続して研究を行いました。

「中国茶に山口県産の作物をブレンドしたオリジナル八宝茶の開発を進めています。中国茶葉に乾燥したショウガ、ナツメ、ミカンなどをブレンドした『体を温めるお茶』と、キウイ、リンゴ、イチゴなどをブレンドした『香りを楽しむお茶』の2種類を開発し、すでに店舗で提供しています。

研究では先生方に、私がブレンドし

たオリジナル八宝茶について、味や香り、飲みやすさをモニタリングする嗜好調査やリラクゼーション効果の測定などを実施してきました。自分だけでは独りよがりな評価になってしまいがちですが、客観的な評価を数字で出していただいたのが良かったですね。茶葉の量を増やしたり、作物の配合を変えたりと、商品に反映していました。

今後は、パッケージの開発と販路開拓が課題です。いずれは県内の埋もれた農産物を掘り起こして、利益を農家に還元したいと考えています。



中国茶館「茶座」代表
阿武 直子さん
カラフルで見た目も
楽しめます。

開発したオリジナル八宝茶

高齢部門

高齢者や中高年の生きがい、社会貢献活動の促進など
生涯現役社会づくりのための調査研究を行っています。

阿知須の地域特性を反映した サロン活動運営マニュアルを制作

介護予防のまちづくりを目的とする住民主導型介護予防活動支援事業として、平成22年度、山口市社会福祉協議会阿知須支部と協働し、サロン活動の運営マニュアルを作りました。この事業について、阿知須支部の山本貴広さんにお話を伺いました。

「阿知須では、平成8年度からサロン活動を支援してきました。現在17か所でサロン活動が展開されています。地域共生センターの先生から事業のお話をいただいたとき、サロン活動のマンネリ化や、普及啓発ができるないと感じていたので良い機会だと思いました。

各サロンの担い手を対象に、サロ



社会福祉法人山口市社会福祉協議会阿知須支部
支部事務局長 山本 貴広さん



阿知須の地域性を
盛り込みました。

YPU New Wave

この半年の出来事

昨年10月から今年3月までの主な出来事について、報道発表（ニュースリリース）したものを中心紹介します。

11/1

○平成22年度の桜園学術三賞・桜園会賞表彰式

優れた教育・研究・地域貢献活動に大学から贈られる桜園学術三賞と、本学の支援や地域社会とのつながりにかかる社会・文化的活動を桜園会がたたえる桜園会賞が決まり、表彰式がありました。

受賞団体・個人は次のとおり。（敬称略）

【桜園学術三賞】教育賞 浅羽 祐樹（国際文化学部准教授）

【桜園会賞】奨励賞 山口県立大学タンデムサークルマ同 SCC（桜島クリエイターズクラブ）マ同 山口県立大学マンドリンクラブマ同 栄養学科食育プログラム開発チーム



受賞者と受賞団体のみなさん

11/6~11/7

○華月祭

2日間とも素晴らしい秋晴れの空の下、学生による実行委員会が企画運営したバンド演奏やダンス、ファッションショー、ビンゴ大会など多彩なイベントが開催されました。一般の方も来場され、大いに盛り上りました。



11/13 ○宮野地域住民と県大生の大交流集会開催

21世紀の森（山口市宮野上）周辺で開催した本交流集会は、本学のアメリカ、カナダ、中国、スペインからの留学生を含む27人と、宮野地区住民の方々24人の参加者が集まり、ハイキングや数々の歴史スポットの見学、「ドラム缶によるビザ作り」などが行われ、地域と本学の連携が図られ有意義な交流集会となりました。



参加者の記念撮影

12/2

○山口ライオンズクラブ50周年記念事業贈呈式

本学が、山口ライオンズクラブからパソコン一式の贈呈を受けることとなり、その贈呈式が本学で行われました。この贈呈は、同クラブの50周年記念事業の一環として、留学生支援を目的に行われたものです。



宗里ライオンズクラブ会長から
江里学長への目録贈呈

12/2

○山口県立大学第二期整備将来構想（案）記者発表

将来的なキャンパス移転を視野に入れ、地域貢献型大学としてさらなる飛躍を図る上で必要な施設の整備のあり方についての大学の想いを、将来構想（案）として取りまとめ、発表しました。



記者発表の様子



12/13

○クリスマス・インスピレーション

本学主催のファッショントークイベントとして、山口市民会館で開催されました。

このイベントは、2010年のフィンランドのラップランド大学との学術交流協定締結を記念し、大学の地域貢献活動として、国際文化学部文化創造学科、大学院国際文化学研究科及び国際化推進室を中心となって企画・開催したものです。工夫を凝らした作品展示、大ホールでのファッションショー、ダンス、大殿小学校合唱部の歌など盛りだくさんの内容になりました。また、ラップランド大学のあるオバニエミ市は「サンタクロース」の故郷として有名で、ステージには本物のサンタクロースも登場し、子どもたちにも、また大人の方にも喜んでいただけたイベントとなりました。



サンタクロースとステージ出演者



12/17

○全学対象客員教授講演 福田 靖氏「龍馬伝に込めた思い」

本学の学生・教職員、一般県民の方々を対象として、「龍馬伝」の脚本家福田 靖氏に、脚本家という仕事、そして脚本家になるまでの半生を語っていただきました。ドラマ作成に関するエピソードなど、普段聞くことができない内容も語られ、会場中が福田氏の講演に聞き入りました。



12/18

○山口県立大学公開シンポジウム

「生きるとは何か～人間の可能性を求めて～」開催

本学と「大学コンソーシアムやまぐち」の主催で公開シンポジウムが開催されました。「人間の尊厳について」と題して、法務省矯正局総務課長 西田 博氏による基調講演が行われた後、県内各大学の教授陣がパネルディスカッションによって、専門的な立場から不透明な混迷する時代においてどのように生きていくべきか活発な意見交換が行われました。



展示に見る来場者の方々

2/2~2/6

○卒業修了制作展開催 2月2日～2月6日

平成19年度の学部学科再編で新設された国際文化学部文化創造学科の第1回目となる卒業制作展と第11回大学院国際文化学研究科修了制作展が山口県立美術館で行われました。

ビジュアル、プロダクト、ファッションデザイン等領域の学生の工夫を凝らした約60点の作品に、来場者の方々は足を止めて興味深く見入っておられました。



2/27

○第1回 山口県立大学SD研修会「今、貴方に求められること」開催

本学職員の能力向上を図るために、SD (Staff Development) 研修会が開催されました。事務職員全体の研修会は今回が初めてであり、それぞれが、本学及び自分たちの職務について改めて考える貴重な研修会となりました。



修了式後の記念撮影

2/28

○看護研修センター感染管理認定看護師教育課程修了式

平成21年度から開講した感染管理認定看護師教育課程の第2期生の修了式がありました。日本看護協会のカリキュラムに基づく660時間の教育課程を終え、認定看護師の受験資格を取得しました。江里学長から30人の修了生1人ひとりに修了証書と履修証明書が手渡されました。



3/16

○平成22年度学位記授与式

学部生338人、大学院生24人が本学の思い出を胸に、新たな一歩を踏み出しました。

Welcome to LAB

研究室紹介

社会福祉学部 社会福祉学科
社会福祉学Ⅲ研究室
准教授 内田 充範

社会福祉学Ⅲ研究室では、私が、福祉事務所において生活保護ソーシャルワークに携わっていたこともあり、貧困から生じる様々な生活課題への対応としてのソーシャルワーク実践を研究しています。このため、対象者は、児童から高齢者まで年齢を問わず、障害者、傷病者、母子、失業者、DV被害者、ホームレス、刑余者など何らかの事由で生活困窮に至ったあらゆる人々です。人は生きていくうえで、好むと好まざるにかかわらず、誰もが様々な困難に遭遇する可能性があります。そして、自己の対処能力の不十分さや環境としての福祉サービス

等の不足及びそれらの提供方法の不備などから困難に遭遇したことにより生じる生活課題の解決に支援を必要とします。このような生活課題を把握、理解したうえで介入し、解決・改善・予防を支援するのがソーシャルワークといえます。

2008年度から文部科学省は、児童・生徒のかかえる課題解決のために、スクールソーシャルワーカー活用事業を開始しました。このスクールソーシャルワーカーとして、山口県で活躍する社会福祉士と出会い、昨年度からスクールソーシャルワークの実践を題材にゼミ運営を行っています。教育現場における不登校、いじめ、学力格差などの問題は、児童・生徒の側

だけに問題があるわけではなく、家庭、地域、学校など児童・生徒を取り巻く環境から多大な影響を受けているといえます。さらに、このことは、現代社会そのものが抱える様々な問題と無関係ではありません。社会福祉学Ⅲ研究室に集まってくれる学生たちとともに私自身も、今、現実に起こっている社会現象に敏感になり、その一つひとつについて、深く考え方を養っていきたいと考えています。



国際文化学部 文化創造学科
日本文学研究室
講師 加藤 賢行

私は日本文学を担当しています。日本文学と言っても幅広いのですが、とりわけ明治以降の文学について勉強しています。明治以降、文学が日本社会で果たした役割は多種多様で、芸術である



と同時に娯楽でもありましたし、ある時は政治的な役割を果たす一方で、自己実現や成功を図る方法でもありました。こうした点から見ると明治以降の文学は、日本社会の生活と文化の痕跡をとどめた膨大な資料であり、こうしたところが日本文学の魅力だとわたしは感じています。

山口県立大学は地域貢献型大学ですから、わたしは、山口という地域についての文学も考察しています。大学の附属機関である郷土文学資料センターでは、毎年地域社会にむけての公開講座を行っており、県内の市町をくまなく巡回しています。



Watch Lecture

ターミナルケア論

看護栄養学部 看護学科
教授 田中 愛子

ターミナルケア論（1単位15時間）は、看護学科の必修科目として2年次後期に配置されています。ターミナルケアとは、死を迎える時期に提供されるケアを指していますが、最近では高齢者の看取りを含めてEnd-of-Life careという用語が広く使われているようです。

以前私が臨床の看護師であった頃、死を目前にした方々から、人間の優しさや強さ、いのちの尊さ、1人ひとりが唯一無二の存在であること、そして全ての人に人生の終わりが来ることを教わりました。

本授業では、将来看護職に就く

講義紹介

人が、こうした実感に少しでも近づけるように、演習やビデオを組み合わせて授業を展開していきます。そしてまずは、学生自身の人生を見つめることからはじめます。その上で、人生の完成期を迎える看護の対象者の人生とどのように向き合うのかを考えます。

ターミナル期にある患者の苦痛は、全人的苦痛といわれ、身体的痛みだけでなく、精神的、社会的、さらにはスピリチュアルな痛みがあると言われています。スピリチュアルな痛みとは、人生の意味を問い合わせ際に生じる苦悩や、目前に迫る死への恐怖等を指します。従って、全人的苦痛を持つ人々に向き合うためには、看護職自身が自らの死生観を育むことや、複雑に絡み合った患者の気持ちに寄り添う覚悟が必要となります。

本授業を通して、学生の皆さんのが、看護職として自分自身を見つめ、看護の対象者としっかり向き合う心の準備ができるようになればと願っています。



Consultation 相談の森

皆さんから寄せられたさまざまなご質問に、専門領域の本学の教職員がお答えします。



Q 最近、中学生や高校生の留学ということを聞きますが、高校時代に留学するのと、大学で留学するのとでは、何が違いますか？【高校生の保護者】



A 小学校で英語教育が始まり、母親と子どもが一緒に親子留学をするといったケースも耳にします。海外に姉妹校をもち、希望者のなかから選抜した生徒や学生を交換留学生として派遣する学校も増えています。大学では語学力向上や異文化理解を目的とする多様な短期研修や留学プログラムが用意されていますし、語学力を生かして専門分野を学ぶことも可能になります。一方、高校での留学は自己成長、人間関係の構築、視野の拡大、思考や発想の転換など、人間としてより基本的なレベルでの人間形成が望めます。きっかけや希望、個性、チャンスといったことも踏まえ、何を求めるのかを一つ定めておけば、高校でも大学でも、留学経験は子どもにとって一生の宝物になるでしょう。

高校留学では交換留学のほか、海外の高校で最後まで学ぶ卒業留学といったものもあります。しかし、一般的なのは夏休みを利用した数週間程度のもの、あるいは1学期のみ、半年程度といったケースでしょう。日本と海外の教育機関では新学年の始まる時期が異なるので、高校1、2年生で行くか、あるいは卒業を延ばしても、少しでも語学力のついた3年生で行くか、大学進学等も視野に入れて早めにしっかりと計画を立てることが必要です。

長い人生です。21世紀のグローバル時代を生き抜くには、「人と同じ」だけではすまないといった風潮も見られます。子どものために何をすべきか、親が自立して、子どもとともに情報を収集し、いつもそばにいて面倒をみてあげる以外の「家族のきずな」のあり方について考えてみると大切です。留学は親子を育て、家族関係を一回り大きくしてくれるでしょう。



国際文化学部長
教授 岩野 雅子

Interview Student's 学生紹介 いま、キミは輝いて

次に渡したくなるバトン

国際文化学部
国際文化学科4年
長廣 茜さん
【YPUドリームアドベンチャープロジェクト2010】



YPUドリームアドベンチャープロジェクト2010で採択された、「おいしいいたけプロジェクト」は、しいたけの原木栽培を通して、生産者になることによって生の就業体験の場とすること、しいたけ農協やマロニエの森の会の方々に栽培方法などのアドバイスをいたぐる等の一連の活動を通して、地域と大学のつながりをより強くすることを目標としたプロジェクトです。YPUドリームアドベンチャープロジェクト2008で採択された「夢の森プロジェクト」という、5、6号館裏の桜の森を地域の方の協力のもとに整備し、地域と大学の交流の場とすることを目標とした取組みを引き継いでいます。

食物の生産者になるという経験は、私にとってとても新鮮なことでした。天候に左右されるしいたけの原木栽培は、「おいしいいたけがいつでも食べられる」わけではありません。食べ物にはおいしい瞬間があって、それを見張っていないければおいしいいたけは手に入れることはできません。また、森の整備においても、木を運んだり、草を刈ったりすることは思いのほか重労働です。誰もが小さいころ、食物の生産者に感謝しなければならぬ

力を尽くすことの積み重ねで進化(深化)する

社会福祉学部
社会福祉学科4年
兼重 優介さん
【陸上競技部】



皆さんこんにちは！

私が取り組んでいる陸上競技の長距離は、努力が結果に現れる競技です。私は、走ることが本当に好きで、雨でも雪でも、忙しい日は深夜でも練習は欠かしません。その毎日の練習が少しづ

つですが成果として現れるようになります。しかし、大切なのは「感謝しなければならない」と思うことではなく、自然と感謝の気持ちを感じることです。この活動を通して、私はそれに気がつきました。そして、誰かにこの活動をつなげたいと強く思うようになりました。次の世代の人にも興味を持ってもらえるように、これからの活動も頑張っていきたいと思います。

また、障がいを持った方の陸上競技の指導のボランティアもさせて頂ており、単純に私自身の競技力の向上だけでなく、多くの経験や人との関わりもできました。私の卒論のテーマは「スポーツと福祉」で、陸上で得た知識を高齢者や障がいを持つ方の運動と関連させた研究を行っています。

今後の目標は、大学生活最後の年なので、就職活動や学業と両立させながら、練習を重ね、1試合1試合全力で取り組み、5月の中四国インカレで優勝することです。

このように、陸上に取り組むことができる体を授けてくれた両親、陸上部や学部の仲間たち、多くの方々に感謝しています。



力をいたぐると共に、この歴史を途絶えさせてはならないと強く思いました。

マンドリンクラブは昨年で創立45周年を迎え、OB・OGの方々と合同で記念演奏会を行いました。その中で改めてマンドリンクラブの伝統と歴代の先輩方の想いを感じ、今後の活動への大きさ

Circle Report

マンドリンクラブ

国際文化学部
文化創造学科3年
マンドリンクラブ部長
藤山 佳生子さん
【マンドリン音楽の楽しさを伝えたい】



私はマンドリンクラブは、イタリア発祥の弦楽器「マンドリン」をオーケストラ形式で演奏しているサークルです。

年に1回の定期演奏会や学校行事で

サークル紹介

の演奏、山口大学との合同演奏会などの活動を行っており、また「多くの人にマンドリン音楽を知ってもらい、楽しんでもらう」ことを目標として、地域のイベントや施設での依頼演奏といった活動にも力を入れています。

マンドリンクラブは昨年で創立45周年を迎え、OB・OGの方々と合同で記念演奏会を行いました。その中で改めてマンドリンクラブの伝統と歴代の先輩方の想いを感じ、今後の活動への大きさ

Exchange Program 交換留学

山口県立大学は中国・韓国・アメリカ・カナダ・スペイン・フィンランドの7大学と学生や教員の交流、地域社会の国際化を進めています。今回はフィンランドのロバニエミ市にあるラップランド大学との交換留学生にスポットを当てます。

● ● ラップランド大学へ ● ●

国際文化学部国際文化学科4年
高屋みな・尾崎真友子さん



①自然に囲まれた田舎にあるわりと小さめの大学ですが、校舎はとても綺麗で、おしゃれで、図書館やカフェテリアなどの施設も充実しています。写真中央が尾崎さん、右が高屋さん留学生の比率が多く、静かな雰囲気の大学です。(高屋)

②ホストファミリーとの一番の思い出は、Leviという場所に一泊二日の旅行をして、ウインターハーパーと-40℃の極寒を体験したことです。フィンランド料理を食べができるレストランにも連れて行っていただき、フィンランド文化を満喫しました。(高屋)

③やはりホストファミリーとの思い出の場所、Leviです。フィンランドでもそんなに知名度は高く無いですが、雪景色が綺麗だったことが今でも鮮明に思い出されます。フィンランドに行ったら必ずもう一度は行きたい場所です。(高屋)

④講義時間は3時間と長いですが、10分の休憩時間があります。休憩中、学生は席を離れ、カフェでコーヒーを飲んで過ごしています。また、グループワークをして発表をすることが度々あり、学生が実践的に学習できるという印象を受けました。(尾崎)

⑤フィンランド各地にある歴史的建造物や美術館を訪れる小旅行に参加したことです。実際に目で見て肌で感じることにより、フィンランドの歴史・芸術や生活様式について深く学ぶことができました。また、新たに友達の輪を広げることもできました。(尾崎)



- ①留学先大学の印象
- ②ホストファミリーとの1番の思い出／寮生活の1番の思い出
- ③留学中に訪れたお気に入りの場所とその理由
- ④留学先大学の授業の印象
- ⑤留学中に参加した課外活動と思い出

● ● 山口県立大学へ ● ●

ラップランド大学4年
マリー・アラキ一二ヤさん



①大学は、とても温かく勉強しやすい環境にありました。最初は、建物がたくさんあるので迷うなど戸惑いましたが、スタッフの方々や学生もみんなとても友好的で助かりました。

②大学の公室にルームメイトと一緒に住まわせていただきました。他人と一緒に暮らすのが初めてのことで、最初は緊張しましたが、すぐ友達になることができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。その生活から学校と同じくらい多くのことを学びました。また、5日間ホームステイがあり、ホストファミリーの方々に、温泉や萩の観光に連れて行っていただき、とても楽しかったです。日本人の日常生活を知るよい機会となりました。

③最も興味があり、美しいと思う町は京都です。私は歴史が好きなので、歴史に溢れた美しい古都、京都に2回旅しました。もう一つの大好きな町は東京です。ディズニーランドとディズニーシーに行きました。ここは経験したことのない素晴らしいところでした。パリにもディズニーランドはありませんが、東京とは比べ物になりません。

④萩焼、日本語、日本史、テニス、地域交流、英語授業などをたくさん授業を受講しました。それらはすべて面白く、多くの事を学びました。県立大学での授業は、私の大学とは1クラスの学生数が違います。時には、1クラスが100人以上になることもあります。授業を良く聞くことでその授業が楽しくなることを、こちらに来て学びました。

⑤普段は勉強したり、友達と会ったり、ジョギングに出たり、バドミントンで遊んだりして余暇を楽しみました。よく旅にも出ました。旅がその国を知る最良の方法だと思います。日本では多くの場所を旅することが出来、たくさんの事を学ぶことが出来ました。

ラップランド大学

フィンランド・ロバニエミ市



フィンランド国立ラップランド大学は、首都ヘルシンキから北へ835kmの北極圏に近い街、ラップランド州都のロバニエミ市にあります。サンタクロース村、オーロラ、ウインターハーパー、極北ラリー、世界最北のマグダナルド、デザイン、建築などで有名な街です。第二次世界大戦で破壊された街を世界的に著名な建築家アルヴァ・アアルトが都市計画を行い、彼のデザイン・設計によるロバニエミ図書館やラップランド博物館は素晴らしい、世界中からデザインや建築に興味がある人々が訪れます。クリスマスシーズンは世界中からのサンタクロース村への観光客で街は一杯になります。

ラップランド大学は1979年に創立され、アート＆デザイン学部、教育学部、法医学部、社会科学部があり、学部生4,300人、院生500人、海外からの学部・院生173人、交換留学生215人が学んでいます。特に、デザインは国立大学では2番目の規模で、極北における芸術・文化・環境領域、持続性ある開拓、ツーリズム、ソーシャルワーク、社会福祉、教育学、情報伝達技術、サミン（先住民族）の研究などを教育・研究の特徴としています。

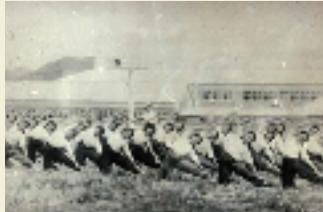


山口県立大学創立70周年記念事業について

本学は、1941年(昭和16年)、山口市宮野桜島の地に山口県立女子専門学校として開校して以来、本年5月に、創立70周年を迎えることになります。

今日、少子化の進行等により、大学は「学生に選ばれる時代」を迎えたと言われています。本学も、個性を前面に出しながら、学生のニーズと地域の要請に応えていかなければなりません。

このため、折しも迎える創立70周年を、未来に向けて新たな飛躍を図る好機と捉え、記念事業を実施します。この事業を成功させ、「地域貢献型大学」としてさらなる発展を遂げたいと考えております。今後とも、皆様方のご支援とご高配をよろしくお願い申し上げます。



記念事業概要

- 記念式典
 - 日時 5月21日(土) 13:00~15:30
 - 場所 山口県立大学講堂
 - 次第 ・式典
・講演
 - 講師 独立行政法人宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 吉川 真 先生 (小惑星探査機「はやぶさ」プロジェクトサイエンティスト)
 - 演題 「帰ってきたハヤブサ、そして未来へ」
 - 本学歴史資料の展示
- 創立70周年特別公開講座 県内各地

平成23年度の新規採用教職員です。

教員



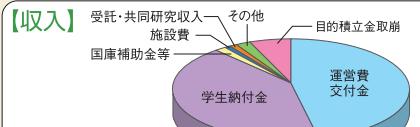
職員



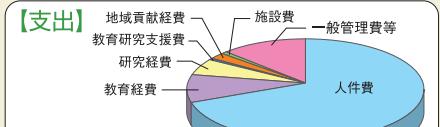
平成23年度の予算

【予算規模】

区分	平成23年度 A	平成22年度 B	増減額 C = A - B	増減率 D = C / B
予算額	2,034,425	2,061,727	△27,302	△1.3



- ◆運営費交付金と学生納付金とで17億87百万円と全体の88%を占めています。
- ◆受託・共同研究収入は、毎年、20百万円増の獲得を目指しています。(H23:20百万円)



- ◆人件費は14億01百万円であり、支出予算総額の69%を占めています。人件費のうち75%(10億50百万円)は、教員人件費です。
- ◆事業費(教育研究に係る経費など)は、6億33百万円であり、前年度に比べ3%増加しています。

【主な取組】

学生支援の強化

厳しい就職環境への対応

キャリアサポートセンター所長を民間登用会社との連携を図るほか、専門分野別キャリアカウンセラーの配置、1・2年生向けキャリア講座の開設など、就職活動支援体制のより一層の強化を図ります。



入学企画対策の充実

入試広報の拡大やオープンキャンパス等の推進によって、本学の魅力を発信し、本学で学ぶにふさわしい意欲・適性・能力を持った学生を迎え入れます。

地域貢献・国際交流

オープンカレッジ

大学の授業を公開する「公開授業」、出前でお届けする「公開講座」、専門的なニーズにお応えする「やまぐち桜の森カレッジ」「サテライトカレッジ」、現職者のスキルアップのための「キャリアアップ研修」など、さまざまなオープンカレッジを開催して、皆様のご参加をお待ちしています。

本学留学生地域交流

地域の小中学生等に異文化との出会いの場を提供するため、本学留学生とともに各地域を訪問し、交流を図ります。

教育研究活動の展開

大学改革推進事業（文科省 Good Practice）

山口東京理科大学、山口芸術大学との連携による教育研究等の高度化に向けた取組「戦略的大学連携」や、地域との交流を新しい学びの場とする「やまぐち多世代交流・地域共生授業」、学生が大学の公的活動や地域活動に参加することで社会人基礎力を養う「学生支援GP」など、文部科学省に採択された優れた教育の取組を推進します。

食育プロジェクト

本学の特色を生かし、食育に関する学生の実践活動や食生活自立の支援と地産地消を組み合わせた取組（地産地消メニュー開発、お弁当のプロジェクトなど）を総合的に進めます。

国際共同研究

ラップランド大学（フィンランド）、青島大学（中国）との間で、本学の特色を生かした共同研究にそれぞれ取り組みます。

特定課題への対応

県立大学将来構想

平成24年度からはじまる第二期中期計画期間の到来や、第一歩を踏み出したキャンパス移転に向けて、本学がさらなる発展を遂げるための調査検討を行います。

おいでませ！山口国体・山口大会への参加

両大会のボランティアを人材育成の場として活用し、本学学生が多数参加します。また、活躍が期待される本学在籍選手への支援を行います。

創立70周年記念事業

創立70周年の節目を記念し、記念式典・記念講演（5月21日）、特別公開講座、将来の活性化に向けた基金の創設などの事業を行います。

Topics

■本学事務職員 松田 薫(まつだ・かおる)さんが、
地域の少年野球クラブで陸上(走り方)教室の講師として活躍。

経営企画部企画グループで勤務している松田薰さんが、少年野球クラブ(山口大内クラブ)で、小学生27名を対象に陸上教室の講師を務めました。

松田さんは山口県出身で、地元の高校を卒業後、日本女子陸上界のトップレベルにある福島大学で活躍し、これまでに9回の国体出場、2009年の日本陸上競技選手権大会200mでは第3位、同年東アジア選手権大会200mでは第4位という実績を持っています。昨年の9月から、地元山口に戻り、本学で勤務しながら、山口国体出場を目指し、日々練習に励んでいます。

松田さんは、「子ども達の走りがどんどん変わっていく姿を見て驚きました。地元の子どもに走る楽しさを知ってもらうことができ嬉しく思います。」と喜びを語りました。教室実施の前後でタイムを計った少年22人中19人がタイムを短縮するという素晴らしい成果が現れました。



Campus Schedule

4 APR	入学式、宿泊オリエンテーション、前期授業開始
5 MAY	開学記念日、創立70周年記念式典
6 JUN	水無月祭、グローバル学生交流
7 JUL	オープンキャンパス
8 AUG	前期末試験、夏季休業、AO入学試験、海外語学・文化研修(9月も)
9 SEP	秋季卒業式、AO入学試験(二次選抜)、3年次編入学試験

本学への寄付(H22年度下半期分)H23.3.15現在

●生活協同組合コープやまぐち(寄付講義)	198,000円
●山口ライオンズクラブ	パソコン1式
●昭和電工㈱	1,000,000円
ほか3件	1,110,000円
計6件	合計 2,308,000円



ありがとうございました。

編集後記

平成23年3月春分の日 木村 泰則(経営企画部長)

日増しに暖かくなり、庭の木々も芽吹き始めた3月、362名の卒業・修了生が、本学を卒立っていきました。少しづみしい気持ちがしますが、4月には新しい新入生との出会いがやってきます。

今回は、附属地域共生センターの取組を特集し、地域の方の「お声」を掲載しています。公開講座や、共同・受託研究などの諸活動に参加してくださった方々のご意見に、共通するキーワードは「つながり」です。横のつながりを大事にできるところに魅力を感じ、本学との継続的な関わりを持ち続けてくださいます。

本学は、創立70周年を迎えます。これからも、学生、地域の方々をはじめ、多くの方とつながり、そして、すばらしい人間関係・知識・能力が育まれる出会いの場として、歩んでいきたいと考えています。

皆さまからの広報紙へのご意見、ご感想をお待ちしております。



〒753-8502 山口県山口市桜島3丁目2番1号
Tel.083-928-0211 Fax.083-928-2251
<http://www.yamaguchi-pu.ac.jp/>
※Web動画配信も行っています。

男女共学化となった平成8年11月から行われている「華月祭」。宮野の夜を彩る模擬店や華やかなステージ発表が2日間に渡って行われる学園祭です。今年も多彩なイベントが開催され、大いに賑わいました。

表紙の題字は、江里理事長(学長)の直筆です。